

Wilson®

NUMBER 1 IN TENNIS*

INTERVIEWS

2009 WILSON FREE PAPER

PICK UP

- US OPEN & JAPAN OPEN NEWS
- 世界のストリングス事情
- HIT THE BALL
- Message To Kei
- Ra-Ti Taping Supporter
- Wilson Tennis Web Academy 20X

No.5 OCTOBER 2009



6年ぶりの新 US オープンチャンピオン誕生!

US OPEN

次世代テニスのパイオニア デルポトロ覚醒!!



Juan Martin Del Potro

フェデラーを追い詰めて勝利。遂に覚醒した巨人が、新時代のステージに大きな一歩を踏み出した。試合後、「ここでナダルやフェデラー、ほかのすばらしい選手を倒せたから、ほかのグランドスラムでも勝てるチャンスはあると思うよ」とグランドスラム初優勝の喜びに浸るだけでなく、今後も見据えたコメントを語ったデルポトロ。計り知れないポテンシャルを秘める彼がツアーの中心になり、新たな伝説を築き上げていく日も遠くないのかもしれない。

ファン・マルティン・
デルポトロ
使用モデル

[K] SIX.ONE 95

HEADSIZE(sq.inch)	95
WEIGHT(g)	310
BALANCE(cm)	31.5
THICKNESS(mm)	2.2
LENGTH(inch)	27.0
STRINGS PATTERN	16x18
PRICE(tax-included)	¥34,650



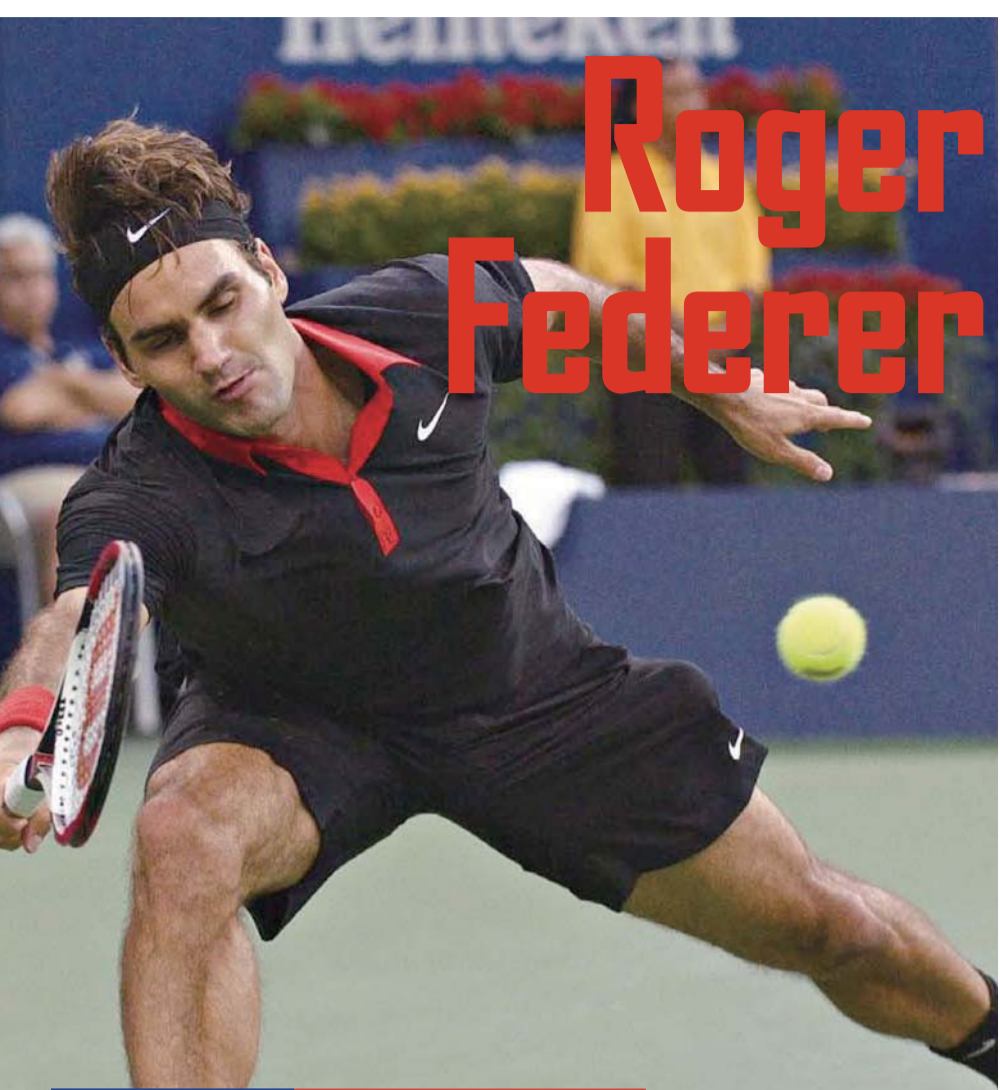
04年にフェデラーがUSオープンを制して以来、これまで実に4人ものトップ選手がアーサー・アッシュ・スタジアムでの決勝戦でフェデラーに挑み、ことごとく敗れ去ってきた。フェデラーが築き上げたUSオープン決勝戦の壁はあまりにも高く、今年もフェデラーが優勝しUSオープン6連覇を達成するものと思われた。しかし、その壁を乗り越えたのは198cmの巨人・デルポトロ。しかも、フェデラーとの世代交代を感じさせる強烈な強さを発揮しての栄冠となった。

今年のUSオープン開幕前、男子で注目を集めていた話題は「フェデラーが6連覇できるか」と「復帰したナダルが生涯グランドスラム達成するか」だった。他には、グランドスラム大会初第2シードで登場したマレーが注目される程度で、この時点でデルポトロに注目するのは母国アルゼンチンのメディア以外ほとんど皆無に近かった。しかし、デルポトロのテニスを知る者にとって、「そろそろデルポトロが真価を発揮するときが来るのでは?」と密かに感じていた人も多かったはず。デルポトロは、これまでの「長身の選手はサーブだけ」という概念を覆し、俊敏なフットワークを有しながら、サーブだけでなく鋭いストローク、タッチ系のショットをも持ち合わせる次世代型プレーヤー。

その真価が発揮されれば誰も手が付けられなくなるというポテンシャルは広く認められていた。実際、デルポトロは2年前18歳でランキング50位台に到達し、最も将来を嘱望される10代として注目を集めると、08年7月にATPツアーで初優勝。またデルポトロが他の有望新人と一味も二味も違うのは、この初優勝から4大会連続で優勝し、ATPツアー初となる快挙を成し遂げたこと。テニスが強いだけでなく、話題も集めるスター性をも兼ね備えていたのだ。そのデルポトロは、今年のオーストラリアンオープン準決勝ではフェデラーにストレートで敗れたものの、フレンチオープン準決勝ではフェデラー相手にファイナルセットにもつれ込む接戦を演じるようになる。勝ったフェデラーが「デルポトロは、これからもっともっと進化してくる選手になるだろう。決して侮れない、すごいプレーヤーになるよ」と警戒していたぐらいだ。そして、そのフェデラーの予測どおり、USオープン前哨戦ではナダル、ロディックなどを倒し、2大会で9勝1敗という驚異的な強さを発揮。絶好調のままデルポトロ自身が「最も好きなグランドスラムで、最も優勝したい大会」と口にするUSオープンに入ってきていた。そして第6シードが付いた今回のUSオープンでは、4回戦までを順当にクリア

すると、準々決勝で同じく次世代No.1候補のシリッチに勝利。シリッチは4回戦で第2シードのマレーを下して勝ち上がってきただけに、そのシリッチを退けたのは次世代のエースとして大きな意味を持つものだった。そして続く準決勝では、ナダルをストレートで一蹴。ナダルの武器は左利きから放つ独特の高く跳ねるスピニングボールで、フェデラーもそれに苦しめられてきたのだが、198cmのデルポトロにとっては、その跳ねてくるボールがちょうど高い打点から叩き込めるチャンスボールになる。皮肉なことに、ナダル最大の武器が、デルポトロにとって攻撃しやすいボールとなってしまったのだ。迎えた王者フェデラーとの決勝戦でも、長身から打ち込む得意のサーブをこそぞという場面で決め、ストローク戦でも強烈なフォアハンドからアドバンテージを奪いフェデラーを翻弄。これまで1勝もできなかったフェデラーを攻め立て、もつれて突入したファイナルセットでは強烈なリターンから主導権を奪って





Roger Federer



ウクライナの新星 ボンダレンコ グランドスラム 初のベスト8進出!

Kateryna Bondarenko

カテリーナ・ボンダレンコ
使用モデル
HEADSIZE(sq.inch) 98
WEIGHT(g) 304
BALANCE(cm) 32.5
THICKNESS(mm) 2.1
LENGTH(inch) 27.0
STRINGS PATTERN 18x20
PRICE(tax-included) ¥35,700
[K]BLADE 98



今年のUSオープン、ベスト8に残ったトップシードはセリーナ・ウィリアムズ一人というアップセットが連日起こる大混戦となったのだが、その口火を切ったのがウクライナのカタリーナ・ボンダレンコだ。

カタリーナは昨年までグランドスラム大会では2回戦進出が最高で、最高ランキングも37位と最高ランキング19位の姉アローナの後塵を拝してきた。しかし飛躍のキッカケをつかんだのは今年のオーストラリアンオープン。自身初のグランドスラム大会3回戦進出を決めると、フレンチオープンでも3回戦進出。ベースラインから深く重いボールをコンスタントに打ち続けることができるようになったため、戦績が付いてきたのだ。

そして、今回のUSオープンで大ブレイク。大会2日目のナイトマッチに組み込まれた1回戦で、第11シードの元女王イワノビッチに第1セットを先取されながらも、第2セットを取り返すと、ファイナルセットもタイブレーク

の末奪い逆転勝利。ビッグアップセットを演じ会場をどよめかせた。

こうして勢いに乗ったボンダレンコは、2〜3回戦をストレートで勝ち上がると、4回戦でドゥルコと対戦。ドゥルコは2回戦で姉のアローナを破って勝ち上がってきているだけに気合いが入っていたのか、何とかカタリーナは、ドゥルコを6-0、6-0でスイープ。試合時間47分というスピードゲームで圧倒。「ほんとうにハッピーだし、ここまでこられて興奮してるわ。ドロウは全然見なかったの、誰と対戦することになるかもわからなかった。いつも前日に次に日の対戦相手を知ったの。大きなサプライズだけど、ここまでかなり練習を重ねてきた。それが報われるときがきたのよ。」

準々決勝ではウィックマイヤーに負けたものの、姉アローナの記録を抜きウクライナ女性で初となるベスト8進出者となったカタリーナ・ボンダレンコ。自信のキャリアに新たな1ページを刻んだ。

フェデラー決勝敗退も、記録が示す王者の強さ! グランドスラム7大会連続決勝進出!

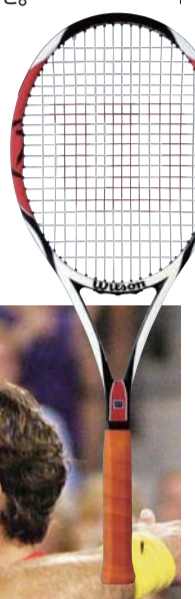
USオープン6連覇、史上最多となる16個目のグランドスラムタイトルを狙い、双子の女の子のパパとなって初めてのグランドスラムであるUSオープンに挑んだフェデラー。1回戦から準決勝までは、ヒューイト、ソダーリンに1セットずつ奪われるも、それほど苦しい接戦を強いられることなく、グランドスラム7大会連続での決勝進出を決めた。そして決勝戦は、過去6戦6勝という相性のいいデルポトロとの対戦だったが、優勝したウィンブルドンでは火を噴いたファーストサーブが入らず苦しい展開に(ウィンブルドン決勝のファーストサーブの確率64%、サービスエース50本。このUSオープン決勝ではファーストサーブの確率50%、サービスエース13本)。その結果、セカンドサーブを長身のデルポトロに高い打点から叩き込まれ、ラリー戦でも苦戦し敗退。04年から積み重ねてきたUSオープン連勝記録を5でストップさせることとなった。「ラファ(ナダル)とは、何年もの間すばらしい戦いをしてきた。デルポトロとも、そのようになるかもしれない。彼の幸運を祈っているよ」と紳士的に勝者デルポトロを称えたフェデラー。敗れはしたものの、今季のグランドスラムはすべての大会で決勝

に進出し、優勝が2回。長身ながら動きもよいという新世代のテニスを展開するデルポトロに対し、王者フェデラーが今後どう戦っていくのか? 非常に楽しみだ。

ロジャー・フェデラー 使用モデル

HEADSIZE(sq.inch) 90
WEIGHT(g) 320
BALANCE(cm) 31.5
THICKNESS(mm) 1.7
LENGTH(inch) 27.0
STRINGS PATTERN 16x19
PRICE(tax-included) ¥36,750

[K]SIX.ONE TOUR 90



ロシアのトップ選手を次々打破 17歳のウダン USオープンでも大躍進のベスト8!!

ウィンブルドンでフィーバーを起こしたアメリカの新星・17歳のウダンが、地元USオープンでも大活躍! 168cmとツアーの中では小柄な体型ながら、「私は(どんな相手でも)絶対に引かないし、絶対あきらめない。私を倒すつもりなら、倒しにかかってこなきゃならない。なぜなら、私は絶対に譲らないから」と、持ち前のファイティングスピリットで大物選手にも体当たりでぶつかっていく。

このウダン、自分からエースを奪うような切れのあるショットはないのだが、基本的にミスが少なく足も早いというエラーが極端に少ない。そうした安定感あるプレーで、1回戦はロシア期待の18歳・パブリチェンコワをストレートで一蹴。またその持ち味が存分に発揮されたのが、2回戦の対デメンティエワ戦(第4シード。ウィンブルドンでベスト4、USオープンシリーズ覇者)、3回戦の対シャラポワ戦(第29シード)、4回戦の対ペトロワ戦(第13シード)。3試合とも第1セットを先取されながらも、「例え1セットを奪われても、私は自分を信じている。力の限り戦えば、『わたしには出来る』と分かっている」と続く2セットを取っての逆転勝利。特にデメンティエワ戦では、試合途中で足を痛めたものの、泣きながらもボールに食いつき、最後は勝利をつかんで満面の笑顔で観客に応えるほど。そんなウダンのひたむきな姿に多くの観客が心を奪われ、大会前半の

ニューヨークの新聞は、連日ウダンのトピックが紙面を飾った。

最終的に準々決勝でウォズニアッキに負けたものの、今大会を大いに盛り上げたウダン。人間味溢れる彼女のプレーは、これからも多くの人を惹きつけ続けるだろう。

メラニー・ウダン 使用モデル

HEADSIZE(sq.inch) 93
WEIGHT(g) 324
BALANCE(cm) 31.0
THICKNESS(mm) 2.0
LENGTH(inch) 27.0
STRINGS PATTERN 18x20
PRICE(tax-included) ¥36,750

[K]BLADE TOUR 93



Melanie Oudin



モンスター再臨 異次元のパワー&スピードで ツォンガが日本を制す!



Jo-Wilfried Tsonga

まさに怪物だった。
時速215kmをマークした驚異的なサーブ力、そして「バキッ」とストリングが割れたような音がする分厚いフォアハンドを武器に、決勝戦では絶好調だったユーズニーを圧倒。テニス界のモハメド・アリことJ-W. ツォンガが、楽天オープン最終日のセンターコートで勝利のダンスを舞った。

試合後「完璧な試合だった。こんなプレーをされたユーズニーはタフだったんじゃないかな?」と語ったように、自分でも満足できる戦いだったようだ。

そもそも今回、第2シードでドロウインしたツォンガは調子よかったようで、「僕は大会前週から今日までずいぶんベッドで過ごす時間があったんだ。だから今すごく体調がいい」と1回戦後の会見で好調をアピール。「(デルポトロが早期敗退し)チャンスが来たと思っているよ」と、優勝を強く意識したコメントでメディアを沸かせた。

しかし、その道のりは決してやさしいものではなかった。

2回戦では、今年薬物疑惑で2カ月半の出場停止命令を受けランキングを落としたものの、復調した元世界ランク7位(2007年7月)の同胞ガスケに逆転で勝利。さらに3回戦では、才能を開花させた次世代No.1候補の一人グルビスに、こちらも逆転で勝利。厳しい戦いを制し、準決勝のモンフィス戦を迎えることとなった。

ガスケに続き、再び同胞対決となったこの試合。「(モンフィスとは)過去の対戦で勝っているんで、自分に勝つチャンスがあることはわかっている」と、試合前に自信を覗かせた通り、試合はツォンガのワンサイドマッチに。56分というスピード決着でモンフィスを一蹴した。

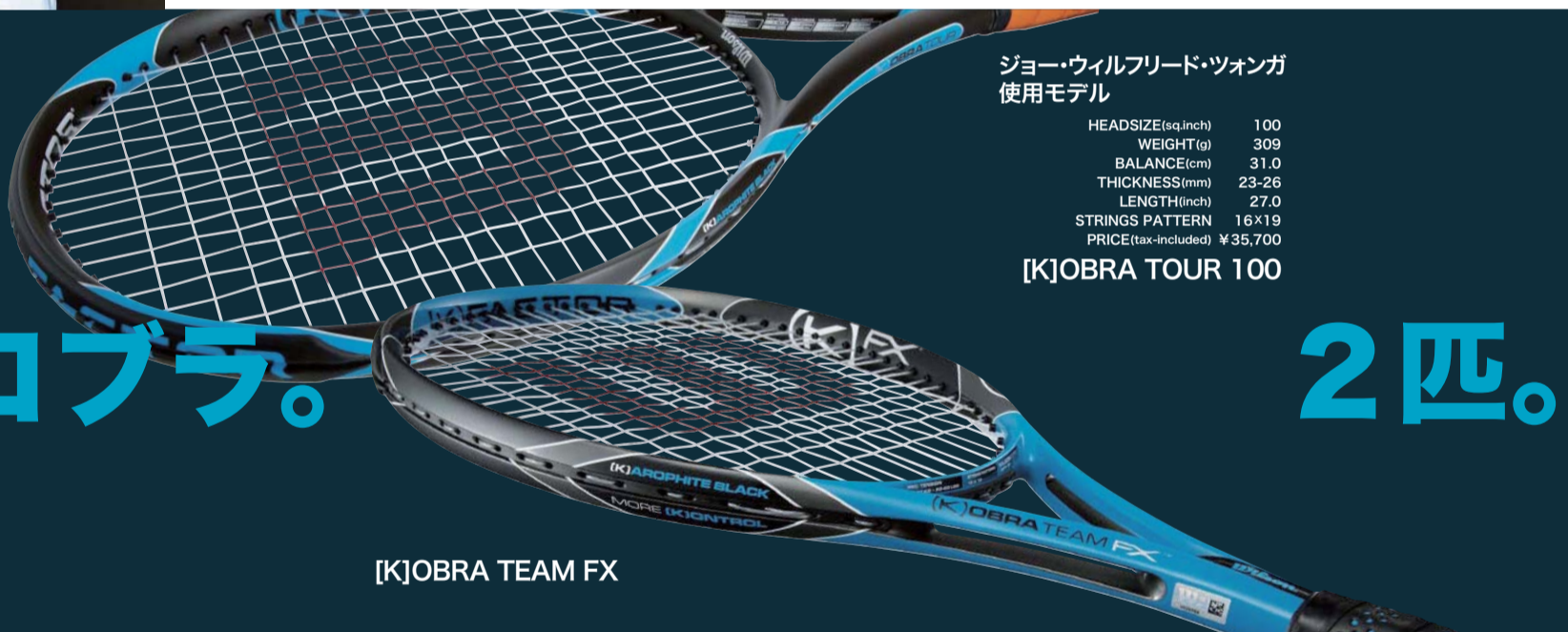
この試合、ツォンガはサーブ、ストローク、ボレーとすべてのショットが絶好調。

「自分でも信じられないぐらいいいプレーができていますよ。パワーが体の中から湧いてきて、すべてのショットがコートに入る。この感じは、(優勝した)マルセイユ以来だよ」と、最高の状態で決勝へとコマを進めた。



そして、デルポトロがいない逆のドロウを勝ち上がってきたのは、元世界ランク8位(2008年1月)のユーズニー。「今、(調子は)今年のベストに到達している。USオープン後3週間休養が取れたことで、体調が万全なんだ」と、強烈なカウンターショット、深く伸びるスライス、そして巧みなゲームメイクで第3シードのシモン、昨年の優勝者ベルディッチ、好調のヒューイットを次々と打破。最高の状態で仕上がった二人の、壮絶な決勝戦が期待された。

そして、パワーで攻めるツォンガを、ユーズニーがどうカウンターで切り返すかが注目された決勝戦。「ツォンガの調子が維持されていけば、ユーズニーにチャンスは少ない」



ジョー・ウィルフリード・ツォンガ
使用モデル

HEADSIZE(sq.inch)	100
WEIGHT(g)	309
BALANCE(cm)	31.0
THICKNESS(mm)	23-26
LENGTH(inch)	27.0
STRINGS PATTERN	16x19
PRICE(tax-included)	¥35,700

[K]OBRA TOUR 100

蒼いコブラ。

2匹。

[K]OBRA TEAM FX



という見方が多い中、この日のツォンガは絶好調。第1セット、出だしこそミス2連発で先にブレイクポイントを奪われるがこれをエースとサーブ&ボレーでしのぐと、第8ゲーム・ユーズニーのサービスゲームでファーストサーブの確率がダウンしたところを攻めブレイクに成功。拮抗した第1セットをツォンガが先制した。

第2セットに入ると、ツォンガのショットはますますうなりをあげるようになる。ユーズニーもプレースメントのよさで何とか対応するも、サーブを簡単にキープするツォンガに対し、ユーズニーは苦しみながらキープという展開が続く。そして迎えた第7ゲーム・ユーズニーのサービスゲーム。ここでツォンガはハードヒットではなく、山なりの高いボールでユーズニーのタイミングを外す作戦に出て、それが見事に成功。ブレイクに成功し4-3とリードを奪うと、次の自分のサービスゲームはサーブからのポイント4発でキープ(5-3リードに)。そして第9ゲーム・ユーズニーのサービスゲームで、デュースからユー

ズニーが放ったドロップショットに追いつきアングルでエースを奪うと、最後はジャンピングのたたき込みショットでフィニッシュ。楽天オープン出場2度目にして、うれしい初優勝を飾った。

それにしても準決勝、決勝でのツォンガのテニスは、異次元のものといっても過言ではなかった。サーブ、ストロークのパワーはさることながら、軽快なフットワークでサーブ&



ボレーを繰り出し、また絶妙なタッチのドロップショットも織り交ぜる。昨年のオーストラリアンオープンで魅せた、あの衝撃を思い起こさせた。

決勝後の会見で記者に「今の調子でプレーできればフェデラーやナダルも倒せる?」と聞かれると、「もちろん!」と即答。見るものを「あっ」といわせるパワーを武器に、ツォンガがこれからのツアーをますます面白くしてくれそうだ!





ストリングへの意識の高さで パフォーマンスが大きく変わる!

細谷 理

ほそや ただし
生年月日：1969年11月25日 39歳
2001年からUS OPEN等のツアー大会で、ナダル、セリーナ、デルポトロ、錦織選手などのストリングスを手がける。世界でたった2人の日本人 Wilson Tour Stringerの1人。

ツアープレーヤーは、一般プレーヤーが想像する以上にストリングに対して敏感だ。そして、その「ストリングに対する意識」は年々高くなっていて、今や、『意識を高く持っていないければ、ツアーでは勝てない』とまで言われている。なぜツアープレーヤーは、それほどまでストリングに高い意識を払う必要があるのか。USオープンでオフィシャルストリングを務める細谷 理氏に話を聞いた。「ツアープロのストリングに対する意識が変わった理由は、ポリエステル・ストリングを使う選手が増えてきたからです。かつてツアープロは、テンション維持力が高いナチュラルを使うケースが主流でした。そのため、ストリングに今ほど意識を払っている

選手は少なかったのですが、テニスがいよいよピーディーかつパワフルに進化し、ポリエステルを使う選手が増えてくると状況は一変しました。ポリエステルはパワーが出る一方で、テンションが緩みやすい性質（ナチュラルに比べると）があります。テンションが緩むと、ラケット面の形が変わることでスイートスポットの位置が変化し、ボールをコントロールできなくなるだけでなくボールがアウトしやすくなるので、それを修正しようとしてフォームを崩すケースも多くなります。そこで選手は、自分のイメージどおりにボールをコントロールするために、いつも同じテンションのラケットを用意することを心がけているのです。これは選手のレベルが高くなれば、ショットの精度もより高いものを求めるようになるので、その傾向は強くなりますね」。つまり、より高いレベルでプレーしたいのであれば、ストリングに高い意識を払う必要があるということ。それはポリエステルに限らず、ナイロンストリングでも同じことが言えるのだ。「プロのように毎試合、何本も同じテンションのものを一般プレーヤーが用意するのは不可能ですが、できる限りこまめにストリングを張りかえる意識を持つことは大事です。そこに上達の大きなポイントがあることを、もっと広く知っていただきたいですね」。

貪欲に道具を試す姿勢が 世界への突破口

このように世界のトップ選手はストリングに対する意識は強いのだが、これはジュニアの世界でも同じことが言えるという。「日本のジュニアは、学校の先生やクラブのコーチから進められたストリングを使う傾向が強く、これが上達の妨げとなっているケースが多くなっていると思います。また「テニスの上達は、自分の技術を高めること」という考えが徹底していて、そこに道具を変えてレベルアップを図るという考えがほとんどないことも、日本が世界から遅れをとっている要因です。世界のトップ選手には、「自分に足りないものは、道具で補う」という考え方が浸透しているので、より自分のポテンシャルを活かせるストリングを口コミや雑誌で貪欲に探し、トライするのが当たり前です。プロの世界で言えば、今多くのトップ選手が使用しているストリングスはルキシロンの『アル・パワー』。

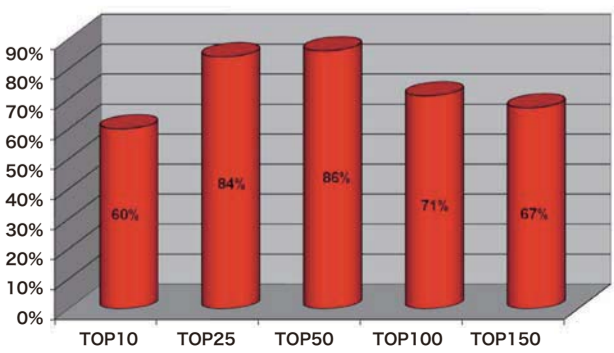
このストリングのパワーが他のモデルと一線を画しているため、多くの選手がこぞって使うようになったのですが、ジュニアの世界でも同じように「今一番いいモデル」を購入して使っています。日本のトップジュニアには、最近自分でストリングを選ぶ選手も増えてきましたが、まだまだその辺りの意識が高いとはいえません。安易に「サポートを受けることが出来る」から使用するの時代逆行しているように思われます。日本のトッププロ選手（サポートを受けることのできるレベルの選手）の中でも実際に自分にとってプラスとなるストリングを購入して使用している選手もいます。そしてその選手が実際に結果を出しているのも事実です。より上のレベルでテニスをしたいなら、もっと道具に目を向けるべきではないでしょうか」。



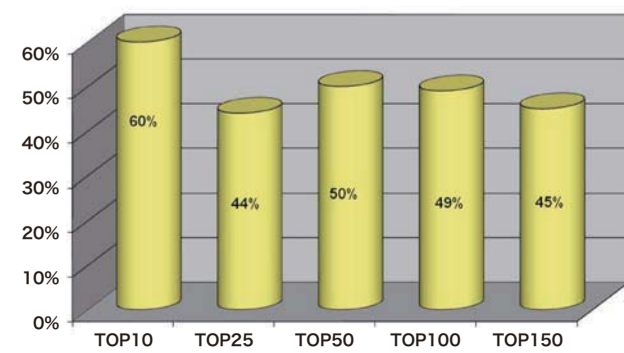
驚きの支持率！ 世界トップ選手の当たり前。

下記グラフを見てほしい。これは2009年度のツアー選手におけるルキシロン使用率を調べたもの。男子においても女子においても驚異的なシェアを誇っているのがルキシロンストリングスだと一目瞭然と分かる。しかし最も驚きなのは、Wilsonが提供している（契約している）選手は、その半数にも及ばないという。つまり、男子女子のTOP100だけに限って言えば、約60人以上の選手は、ルキシロンストリングスを購入使用しているということだ。このことが、ルキシロンストリングスの性能の高さを物語っている。今年で創業50周年を迎えたルキシロンストリングスだが、まだまだ発展途上なのだ。

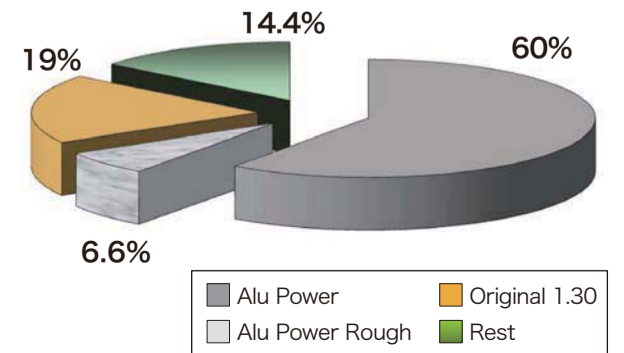
Players using Luxilon
ATPツアープレーヤー使用率



Players using Luxilon
WTAツアープレーヤー使用率



Strings used by the Pros
モデル別使用率





フェデラーをはじめとしたトッププロの最終ウェポン“ルキシロン・ショット”

ルキシロン

LUXILON® Shot

世界のトップ選手が繰り出すショットは日々進化を続けている。

強烈なトップスピン、ボールを潰しながら打つエッグボール、そして<進化した技術>と<進化した道具>が高次元で融合し、回り込み逆クロスから一気にアドバンテージを奪うためのショットとして生み出されたのがフェデラーをはじめとしたトップ選手が“ここぞ”という場面で使用する「ルキシロン・ショット」だ。

このショットは、アドサイドからフォアでショートアングルに打ち込んでいくもの。元々はフレンチオープンで3勝を挙げたクエルテンが得意にしていたショットで、彼が「ルキシロンのストリングのおかげで打てるようになった」と話したことから、通称「ルキシロン・ショット」と呼ばれるようになった。

このショットを打つための条件は、短く落ちる、強烈なスピン回転をかけていくこと。そのためにはボールをたたき潰してその変形復元さえも積極的に加速に生かしていくほど高速なスイングスピードが必要となるが、それだけではこのショットを打つことができない。もう一つ、“強烈なインパクトでもフェース面がブレたり歪んだりせず、しっかりとプレーヤーの意志を再現できるストリング”が絶対に必要なのだ。

かつて多くの選手がこのショットを打つために、テンションを高くしトライしたこともあったが、それではストリングが切れやすく、またフェース面の形状も変化しやすい。そこで登場したのがルキシロン。ルキシロンはテンションを上げ過ぎなくてもしっかりとしたフェース面を確保することが可能。さらに強

烈なスイングスピードでボールをこすり上げても形状が変形することなく、スイングのパワーをしっかりとボールに伝えることができるので、フォアハンドのショートクロスを思い切って打てるようになったのだ。

これは、まさにツアープレーヤーが待ち望んでいたストリング。そうしてルキシロンはトップ選手のパワーに応えるストリングとして、一気にツアーで使用者を増やすこととなった。結果として、ウィンブルドンではなんと67%の男子がルキシロンユーザーとなり（ハイブリッドでの使用を含め）、女子でも51%のシェアを占めている。

繊細なコントロール性とスピン性を求めたフェデラーは横糸に『アル・パワー・ラフ』を張り、一発の威力を持つツォンガは、さらな

る安定性を求めて『アル・パワー・ラフ』を全面に使用。また、錦織圭も今季から、パワーとスピードを向上させるために、縦糸に「アル・パワー・フローロ」を使用している。そして、しなやかな体とパワーを持つモンフィスやデルポトロは、そのパワーを最大限に生かせる『アル・パワー』を使用。さらにフェレールは総合的に優れた『オリジナル』のユーザーで、「加速性能が気に入っている」とのコメントを残している。

▼お問合せ先
 アメアスポーツジャパン株式会社
 TEL: 03-3527-8731
 URL: www.wilson-tennis.jp

圧倒的なパワーで多くのトッププロが愛用する

若手のパワーヒッター、デルポトロとモンフィスはアルパワーユーザー



ALU POWER

アル・パワー

¥2,940

- ゲージ：1.25mm
- 長さ：12.2m
- 素材：ポリ・エーテル・エーテル+アルミ・ファイバー
- カラー：シルバー、アイスブルー

左) Juan Martin Del Potro

右) Gael Monfils



パワーとスピン性を求めるプレーヤーに

フェデラーはこれを横糸に張ってコントロール性を強化。ツォンガは持ち前のパワーを安定させるためスピン性の高さを求めた



ALU POWER ROUGH

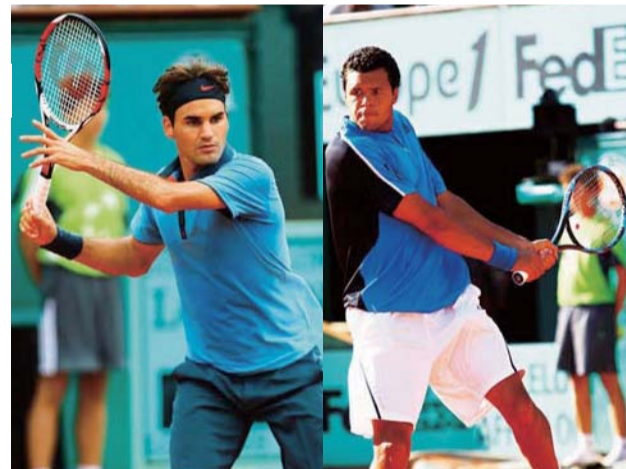
アル・パワー・ラフ

¥2,940

- ゲージ：1.25mm
- 長さ：12.2m
- 素材：ポリ・エーテル・エーテル+アルミ・ファイバー
- カラー：シルバー

左) Roger Federer

右) Jo-Wilfried Tsonga



しっかりした中でもしなやかさを求める人に

錦織圭がタテ糸に採用。スピン性が高く、しなやかな打感のアルパワー



ALU POWER FLUORO

アル・パワー・フローロ

¥3,150

- ゲージ：1.23mm
- 長さ：12.2m
- 素材：ポリ・エーテル・エーテル+フローロ・カーボン
- カラー：シルバー

Kei Nishikori



総合的に秀でるポリの代表格

フェレール始め、トップスピナーたちに愛されるオリジナル



ORIGINAL

オリジナル

¥2,835

- ゲージ：1.30mm
- 長さ：12.2m
- 素材：ポリ・エーテル・エーテル+フローロ・カーボン
- カラー：ナチュラル

David Ferrer





東レPPOテニス会場のWilsonブースにミニテニスコートが出現。これは会場を訪れた観客に、「HIT THE BALL」ボールを打ってみよう!>というメッセージを贈るために特設されたミニコートだ。このミニコートで、身の丈以上のジャンボラケットと、ジャンボボールでボレーに挑戦して、見事20回続いたペアに記念品が進呈されるルール。見た目は結構簡単そう。でも実際プレーしてみるとこれがなかなか難しい。なんと言ってもラケットが大きいだけに、フォアorバックの選択が遅れるとどうにもならない。悔しい思いで何度も何度も挑戦するペアも出てきて、会場は大いに盛り上がりを見せた。

大会期間中は(9月25日(金)~10月3日(土))連日行列が出来るほどの賑わいぶり、ゲームに挑戦した参加者は約3,000名。Wilsonブースではいつも新しい提案が行われています。次回どこかの会場で見かけたら参加してみては?

”結構楽しいじゃんか!”

Wilsonの「HIT THE BALL」プロジェクト始動。
HIT THE BALL.
球(打)プロジェクト www.wilson.com

どんな形でも「テニス」に興味を持ってもらうために、ウイルソンがスタートさせたプロジェクト。今後も色々な場所、形、スタイルで「テニス」を提案して行きます。



日本のテニスを盛り上げる「テニス活性化委員会」。

tennismile.jp

昨年4月より、テニス用品メーカーとテニススクールやテニスクラブ事業者が集い、「日本のテニス界を他のスポーツに負けないメジャースポーツに盛り上げたい」「テニス人口を更に拡大したい【ラケットを持つ人を増やしたい】」「強い選手をもっと輩出し世界で活躍して欲しい」との熱い想いを込めて、『テニス活性化委員会』を結成いたしました。

メンバーは、「アマスポーツジャパン(株)」、SRIスポーツ(株)、(株)ゴーセン、ダイワ精工(株)、(株)ダンロップスポーツ、東亜ストリング(株)、プリチストンスポーツ(株)、ミズノ(株)、ヨネックス(株)」のメーカー9社と、テニスクラブやテニススクールの事業者で組織する(社)日本テニス事業協会です。

昨年は「テニスに関する意向調査」を行ったほか、地道な草の根活動を行いつつ、テニス活性化委員会のスローガンを「始めよう! 続けよう! もっとテニスを!!」と決めました。

今年からは「始めよう部会」と「もっと続けよう部会」の2部会で活動を行っており、9月より「テニスマイル」のウェブサイトを開設し、テニス愛好者やテニス事業者役に役立つ情報発信を行います。



テニス活性化委員会



テニス活性化委員会 委員長
有坂 誠道

有坂 誠道

怪我で欠場も、絶対の人気を誇る日本のエース。錦織圭。



10月6日(火)、楽天ジャパンオープンのWilsonブースには大勢の人だかりが出来た。今年の3月に受賞したATP新人賞のセレモニーのために会場に来ていた錦織選手のサイン会がWilsonブースで行われるからだ。サイン&記念撮影に参加できたのはジュニア25名だけだったが、多くのギャラリーがWilsonブースを取り囲み、眩しいくらいのシャッターが切られていた。

また、Wilsonブースに特設されていた「Message To Kei」ボードには、来場者から、復活のためにトレーニングを積んでいる



錦織選手へのメッセージを込めたフォトカードがたくさんが張られており、これを見た錦織選手は、笑みを浮かべて「怪我はもう大丈夫です!」と近い将来の復活を約束してくれました。

ウイルソンは「テニス活性化委員会」のメンバーです。

「必要になる前の必需品。」

ラジウム&チタンパワーを装備して 新登場。

サポーターとは、怪我や故障をした部位を保護するものだという認識が大半ではないだろうか? そうではない! 本来サポーターとは、怪我や故障を防止するために使用されるべきだとウイilsonは言う。

「怪我をする可能性が高まるのは

- ① 疲れているとき
- ② 負荷の量・質に変化が生じたとき
- ③ 過去に故障をしているときです。

こうした状況に面する前に、事前に体をケアする必要性が求められているのです。」

ウイilsonが展開するRa-Tiテーピング・サポーターの第1の特徴は、シリコンをハニカム状(六角形)に圧着装備している点だ。

シリコンとは硬度(伸縮)

を自在に調整できる素材。

そのシリコンをテニスで

求められる筋力の強度に

合わせて調整し、自然界

で最も強度が高く、360度方向に伸縮できるハニカム形状で配備した。そして第2の特徴は、そのシリコンに天然ラジウムとレアメタルチタンを配合したことだ。その効果は良く知られているが、天然ラジウムには筋肉疲労の軽減が期待でき、またレアメタルチタンには血行促進と疲労軽減が期待できるのである。「必要の前の必需品」。これを使用することで、より快適なテニスライフを手に入れてみては。



RA-TI™



手首用

¥1,680

サイズ: SS, S, M, L
カラー: ブラック



ひじ用

¥2,310

サイズ: SS, S, M, L
カラー: ブラック



ひざ用

¥3,675

サイズ: SS, S, M, L
カラー: ブラック



ふくらはぎ用

¥2,835

サイズ: SS, S, M, L
カラー: ブラック



腰用

¥6,930

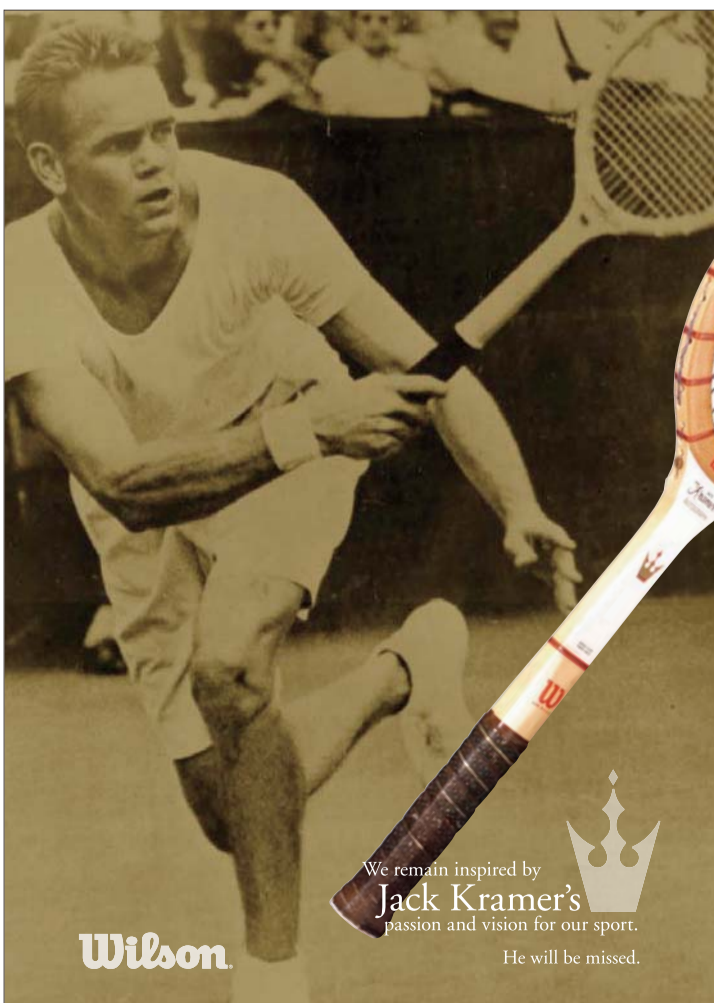
サイズ: SS, S, M, L
カラー: ブラック



ネックパワー

¥2,625

サイズ: M(45cm) L(55cm)
カラー: ブラック×ライトグレー
レッド×ライトグレー
オレンジ×ライトグレー
ピンク×ライトグレー



We remain inspired by
Jack Kramer's
passion and vision for our sport.
He will be missed.

ジャック・クレマー氏逝去。

本名ジョン・アルバート・クレマーというが、「ジャック・クレマー」の名で最もよく知られているクレマー氏は、第2次世界大戦をまたぐ激動期にテニス選手として活躍し、グランドスラム大会ではシングルス3勝、ダブルス6勝、ミックスタブルス1勝と輝かしい戦跡を残している。強力なサーブからの果敢なネットプレー。またリターンからもネットにダッシュする彼のテニスは、見る者を魅了し、いつしかそのスタイルは「ビッグ・ゲーム」と呼ばれるようになっていた。引退後はプロテニスツアーの会長としてツアー運営に専念し、また1972年に発足した男子プロテニス協会(ATP)の初代責任者に就任するなど、運営活動においても顕著な業績を残した。そんなクレマー氏は長年に渡りウイilson・アドバイザー・スタッフとしても活躍し、ウイilson製品開発に多大な貢献をしたと言われている。その代表作は1949年に誕生し、1967年にスチール製ラケットが誕生するまでベストセラーの地位を獲得し続けた「ジャック・クレマー・オートグラフ」だ。

彼の名を冠した、ウイilson初のシグネチャーモデルである。そんなクレマー氏は2009年9月12日、癌のため88歳の人生に幕を下ろした。彼は死の直前までUS OPEN2009の観戦を楽しんでいたという。

20X NEXT

2010年1月。ウイルソンはテクノロジーを超える。
今までに想像すら出来なかった素材。ロジャー、ファン・マルティン、圭、
そして多くのプレイヤーが求めていたものが見える。未体験のフィーリング、音……。2010年。テクノロジーを超えた新しい感性がそこにはある。

2009年11月16日。必見、wilson-tennis.jp

誰もが想像できなかった革命のボールがひらく。ロジャー・フェデラー、ファン・マルティン・デルポトロ、錦織 圭が求めたものが何なのか？
次世代のテニスに必要とされるものは何なのか？全てのテニスプレーヤーにとって切望されていたものは何なのか？
全世界ライブ中継でお送りする「ウイルソン・テニス・ウェブ・アカデミー20X」を見逃すな！

アメアスポーツジャパン株式会社 [カスタマーサービスセンター]
〒135-0063 東京都江東区有明2-5-7 TOC有明ウエストタワー8F Tel.03-3527-8731

© 本誌記事の無断転載を固く禁じます



Wilson[®]
NUMBER 1 IN TENNIS*
wilson-tennis.jp